

111 根付 (2022 年 5 月 12 日)

パリのギメ東洋美術館の別館には、本格的な茶室があることを以前にご紹介しました(* 1)。パリ市内に、デヌリ美術館と呼ばれるもう一つの別館があり、ここには素晴らしい根付(ねつけ)のコレクションがあります。

根付とは、江戸時代(1603-1868)に使われた留め具のことです。ポケットのない着物姿で印籠(葉などを携帯するための小さな入れ物)や煙草入れなどを持ち運ぶときに、それらと根付を紐で結び、帯と着物の間にその紐を挟みました。印籠や煙草入れが下がっても根付が帯に引っかかるため、ぶら下げている物の落下を防ぐことができました。

根付は、1センチから数センチ程度の小さなものです。材質は木材や象牙が使われることが多いですが、金属、ガラス、漆、鹿角など様々な素材で作られました。当初は印籠等の落下防止という機能を果たすためのものとして使われていた根付ですが、19世紀頃から装飾性が高くなりました。根付師という専門の職人が誕生し、ミニチュアの彫刻作品として発展していきました。明治時代(1868-1912)になると欧米文化を取り入れるために洋装化が進み、根付の需要が減りました。しかし、この根付の芸術性は欧米人を惹きつけ、多くの根付が輸出され、現在では日本以外で根付のコレクションが残されているところがあります。



Sources : ColBase
(<https://colbase.nich.go.jp/>)

ColBase
(<https://colbase.nich.go.jp/collection/items/tnm/H-289?locale=ja>) をもとに作成

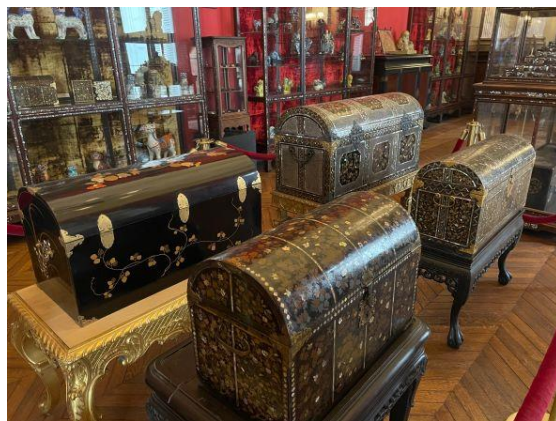
デヌリ美術館は、19世紀後半に劇作家として活躍したアドルフ・デヌリの妻のクレマンس・デヌリ(Clémente d' ENNERY)が蒐集した日本と中国の美術品のコレクションを展示しています。クレマンスは、当時流行していた浮世絵には関心を示さず、約 2500 点にのぼる根付を始めとする工芸品を熱心買い集めました。クレマンスは、コレクションを飾るために邸宅を



建て、美術品を展示する棚を特注で職人に作らせました。邸宅内には、数多くの

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

美術品を収めた棚が所狭しと並んでおり、動物、人物、だるまなど様々な題材の根付を見ることができます。この他には、漆器で作られた洋櫃（ようびつ）（*2）や陶器もあります。クレマンズの死後、クレマンズのコレクションは邸宅とともに国へ遺贈され、ギメ東洋美術館の一部となりました。



建物と展示品の保護の観点から、デヌリ美術館は限られた機会にしか見学することができませんが、収集された品々だけでなく展示方法にもコレクターのこだわりを見ることができる貴重な空間です。



※ デヌリ美術館の見学は事前予約制。2022年5月現在は、一時閉館中。
ギメ東洋美術館公式サイト <https://www.guimet.fr/musee-denner/histoire-du-musee-denner/>（仏語）

* 1 101 茶室の秘密

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100310433.pdf>

* 2 72 南蛮貿易と漆器

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100545670.pdf>